園芸作物栽培に関しての

これからの対策 Q&A

菜園一年の計は土づくりにあり。圃場準備は早めに、植え付けは急がずに！

畑の土壌は野菜を育てる「ゆりかご」です。しっかり根が張り、育っていくのに十分な栄養をバランス良く供給できる状態でなければなりません。土づくりは手間がかかりますが、この一年間のできを左右する大事な作業です。土づくりの第一歩は堆肥など有機物を適量投入し、柔らかで保肥力・排水性の良い土壌にすることです。化学肥料に頼りすぎると土壌微生物は少なくなり、土は固く締まって根の伸びにくい土壌となってしまいます。化学肥料は成分量の割には比較的安価で使い勝手が良く、効果もすぐ出てきますが、土づくりがなされた上で使用すべきものです。

暖冬の中で春を迎えることとなりました。この分ですと野菜苗の売り出しはかなり早くなるのではないかと懸念されますが、4月の日中は暖かくても夜間はかなり温度が下がる時期です。丹南地域では4月15日～20日までは遅霜の降る可能性があります。早く植えると苗が霜に遭遇する危険性があり、枯死したり生育が停滞してしまったりして、後から植えた苗の方が順調に育っていくといった状況になります。早く植える場合はそれ相当の保温対策を行う必要があります。家庭菜園では種まきなど農作業開始の目安は桜の開花時期となります。苗ものの定植は「みどりの日」以降としましょう。

◎定植時施用農薬の種類と使い方について

野菜作りは基本的に肥料と農薬の使用は欠かせません。家庭菜園では有機農業を目指して無化学肥料、無農薬栽培を実践されておられる方も多いと思います。無化学肥料栽培は「ぼかし肥料」の使用などの方法があり取り組みやすい面もありますが、病害虫の防除を無農薬で行おうとするにはそれ相当の知識と技術がなければ未然に防ぐことは困難となっています。

農薬での防除にしても農薬の適量散布と散布技術、防除のタイミングで効果は大きく異なってきます。これから播種・定植作業を迎えるにあたって有効な対策の一つに定植時の土壌処理農薬の施用があります。効果の安定性と初期被害回避の点から適正に使用されることをお奨めします。なお、肥料についての解説は前年同月号を参照してください。

◎ジャガイモの手入れについて

3月の下旬から定植が進んでいると思いますが、まだの方は4月上旬には植えつけて下さい。今月は露地栽培の追肥と土寄せの時期です。生育の早いところでは4月下旬から茎すぐりが始まります。

まず追肥ですが、露地ではまだまだ地温が低い時期ですので速効性の化成肥料を1aあたり2～3kg施用し土寄せします。土寄せの意味は寒さから茎を守るためですので、芽が見えたら一度土で覆うようなつもりで行ってください。ちなみに2回目の土寄せはイモが緑化しないように充分土をかけてやります。

ジャガイモの第1回目の土寄せ

アブラムシやアザミウマなどの初期予防農薬

農薬＼品目	キュウリ	スイカ	トマト	ナス	メロン類
ジェイエース粒剤	○		○	○	
スタークル粒剤	○	○	○	○	
ダントツ粒剤	○	○	○	○	○
モスピラン粒剤（ネキリムシにも有効）	○	○	○	○	
モベントフロアブル（ダニ類にも有効）	○	○	○	○	○

なお、ネキリムシにはダイアジノン粒5%、アブラナ科野菜のネコブ病、ジャガイモのソウカ病にはネビジン粉剤かフロンサイド粉剤があります。

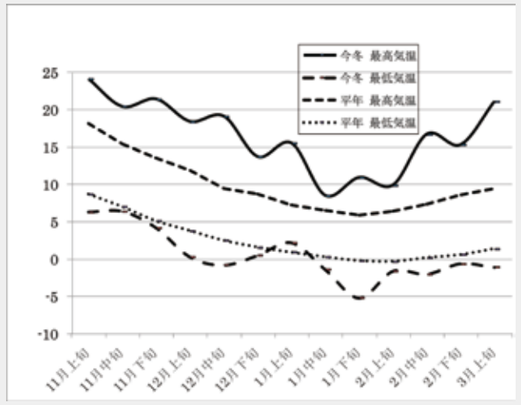
大門　優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51－8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
http://ja.tannan.com/営農手帳をご覧ください。

◎タマネギの手入れについて

今冬は極端な少雪であったため、タマネギのトウ立ちを心配される方が多くなっています。トウ立ちの誘因条件は品種によってもかなり違うようですが、概ね茎径が1㎝以上となった苗が10℃以下の温度に1ケ月以上さらされると発生するとされています。今冬の場合、12月まで暖冬傾向で推移したため早く植えたタマネギは生育が進み過ぎており、その後の低温でトウ立ちしやすい状況となっています。トウ立ちは肥料切れでも促進されますので追肥は確実に行った方が危険性はやや低下します。追肥は基本的に今月の中旬が最後の機会となります。なお肥料のやり過ぎは締まりの悪い球にもなりやすいのでこまめに少量づつ何回かに分施してください。



今冬の気温経過。例年より暖かいが、最低気温は平年より低く推移している。

JA扱いの家庭菜園用肥料

◎直播野菜について

4月に入りますと、直播野菜として春大根、カブ、ニンジン、ネギ、ホウレンソウ、コカブなどの軟弱野菜類などが始まります。春野菜は地温の確保が生育に大きく影響しますので、暖かい日を選んで早めに取り掛かり、できればトンネル被覆や地温上昇と抑草効果のある緑マルチなどで地温の上昇を図りましょう。

◎野菜苗の育苗について

春夏野菜の苗を買い込むと支払額は馬鹿になりません。技術の要る接ぎ木苗や育苗期間が長く、温度も必要なトマト、ナス、ピーマンなどは難しいとしても、豆類やスイートコーン、オクラ、ウリ類（ウリ、カボチャ、ゴーヤ、ズッキーニ、地這いキュウリなど）は挑戦してみてください。播種時期の目安は桜が開花する頃です。育苗日数は30～40日はかかりますので植えられるようになるのは5月中旬頃になります。

手軽に挑戦する場合は、発泡スチロール箱などに播種し、日当たりの良い窓辺に置きます。寒い日中はスーパーバックなどで覆います。夜間は布などをかけて保温します。もう少し本格的に試すなら簡易育苗器を購入して挑戦しましょう。水稲農家なら発芽器も利用できますし、温床マットなどもあります。ポイントは密閉状態にして直射日光により高温にならないようにすることと、発芽し始めたら（播種後、丸3日経過したらよく観察する）できるだけ光を当てて徒長させない事と温度管理です。

本葉が出揃ったら、7.5㎝のポリポットに鉢上げして管理しましょう。なお、培土はタキイの育苗培土が失敗が少ないので使用することをお奨めします。

家庭用の発芽器

Aコープ地場野菜市場の出荷者募集

JAでは少しでも野菜作りで収入を得ていただくため、Aコープ両店で直売スペースを持っております。開設から4年目を経過しており、昨年度は約7,500万円の売り上げとなっています。出荷者数からするとそれなりの収入となっております。今後の更なる売り場充実を図るため新規出荷者・グループを募集しております。栽培についてはJAたんなん野菜塾も開催していますので積極的に参加されますよう申し上げます。

事務局
鯖江市中野町73-13
JAたんなん　東部ふれあいセンター内
TEL.51-8004
指導部営農課　斎藤 政幸 まで